

## 第1部 大學生協の組織

- ・ 日本の大學生協の組織
- ・ 全国大學生協聯の組織運営
- ・ 全国大學生協聯の収入形態

## 第2部 大學生協の活動と発展

- ・ 大學生協の社会的意義
- ・ 日本の大學生協の歴史
- ・ より廣範な協同をめざして



NFUCA  
JAPAN

礼 礼

## ・日本の大學生協の組織

### 【日本の大學生協の特徴】

大學内の福利厚生事業の擔當者

生協法人、即ち非營利協同の事業團體

學生・教職員の大多數が組合に加入、同等の權利

組合の代表(理事長)に教員を選出する傳統

會員間連帶(事業、學習)、連帶組織(地域別、全國)

歴史的に、教育環境整備、生活改善、平和と民主主義擁護、この3つが活動の柱



NFUCA  
JAPAN

(c)

# 【全國大學生生活協同組合聯合會 / 略称：全國大學生協聯】

會員數：206單位生協 (1999年3月31日現在)

10事業聯合

日本  
Japan

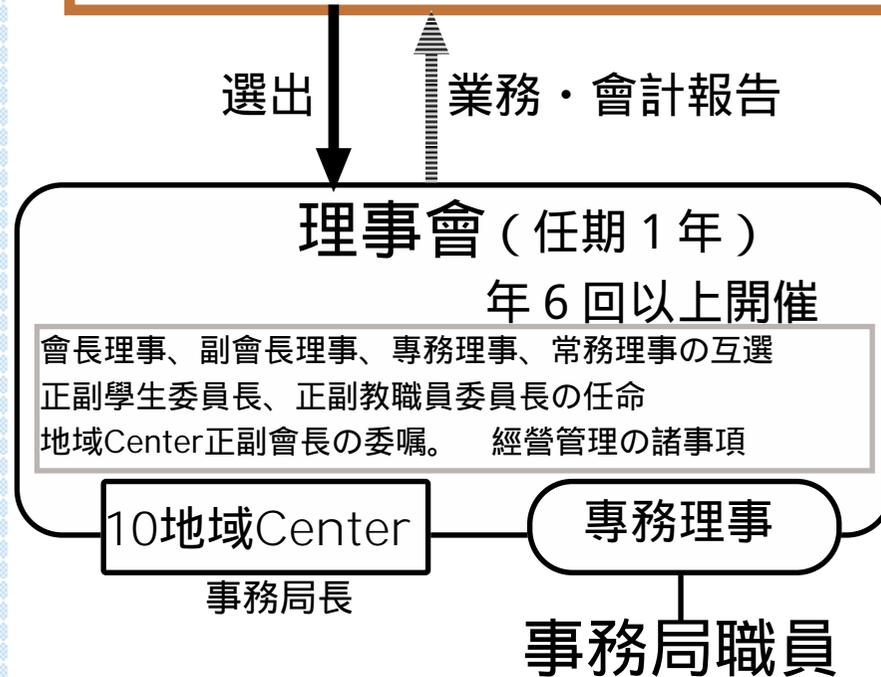
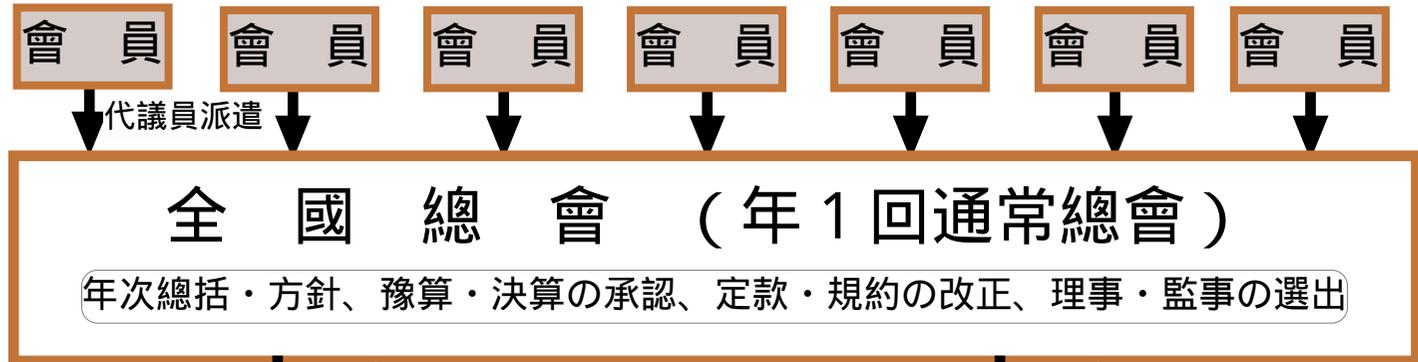


●事業聯合所在地  
=地域Center所在地



NFUCA  
JAPAN

# ・ 全國大學生協聯の組織運営 (2000年度から)



## ．全國大學生協聯の収入形態

**會 費**：會員生協の事業高、組合員數から算出する。

$$(\text{會費}) = (\text{事業高} \times 0.15\%) + (\text{組合員數} \times 5\text{円})$$

**事業 1**：各會員の仕入れの統一條件設定交渉を全國大學生協聯が行う際の事務運営費。書籍の仕入條件の統一化など。會員の仕入れ高の一定割合を手數料として受領

**事業 2**：全國大學生協聯が一括して仕入れ、各會員生協に供給する際の卸しのMargin。紙を仕入れてnotebookに加工して供給したり、單品集中Mass Meritsの追求など。

**共 済**：全國大學生協聯を元請けとする「協同組合保險」事業

**教 育**：各種Seminarの參加費。講師代、會場代等々の實費分を案分し、參加費として徴収。

**その他**：寄附金、銀行利息。



NFUCA  
JAPAN

## ・大學生協の社會的意義

### 大學生協は；

#### ( 1 ) 大學内の福利厚生事業の擔當者

> 大學の目的に添い、學生・教職員のCampus生活面を支援する

#### ( 2 ) 學生・教職員が自ら協同して自立的に生活を改善する組織

> 學生・教職員の共通の要求、關心事を事業を通じて実現する

#### ( 3 ) 魅力ある大學の創造に貢獻する團體

> 大學の使命達成の一翼を擔う

#### ( 4 ) 學生が協同の良さを體驗する實踐的學校

> 毎年卒業 協同の良さが社會に擴大する



NFUCA  
JAPAN

## ( 1 ) 大學内の福利厚生事業の擔當者

食事や教科書、文具などを的確に提供し続けること。  
 食堂、賣店施設（大學からの無償貸與施設）を管理する。  
 大學當局者と大學生協理事會との定期的協議を行う。

- \* 厚生福利擔當部局の部長（学生部長）、課長（厚生課長）を、理事や監事に選出している大學生協も存在している。
- \* 大學構成員の大多數を、生協組合員に！（大學構成員 生協組合員）

## ( 2 ) 學生・教職員が自ら協同して自立的に生活を改善する組織

人と地球に優しい事業・生活をめざして。  
 店舗や食堂の運営に利用者の聲が反映する仕組み。  
 Class・學科毎に總代を選出し、全學の意見を集約した意思決定。  
 Managementへの組合員の参加                      理事になる。  
 廣報(PR)活動・情報の開示                      生協新聞、其の他。



NFUCA  
JAPAN

### ( 3 ) 魅力ある大学の創造に貢献する団体

学生・教職員は、誰もが自分の大学を「魅力的であって欲しい」と願っている。卒業生もまた同様である。

学生は、良い教育を受け、人間性と能力を伸ばしたいと思う。教職員と学生との協力が、生協を大学の使命達成の一翼とする最大の力である。

### ( 4 ) 学生が協同の良さを体験する実践的學校

「大学は知識を断片的に教授するが、生協は実践や活動を通じて立派な市民になるための総合的学習のできる場である。」

「協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正そして連帯の価値を基礎とする」(ICAの声明より「協同組合の価値」)



NFUCA  
JAPAN

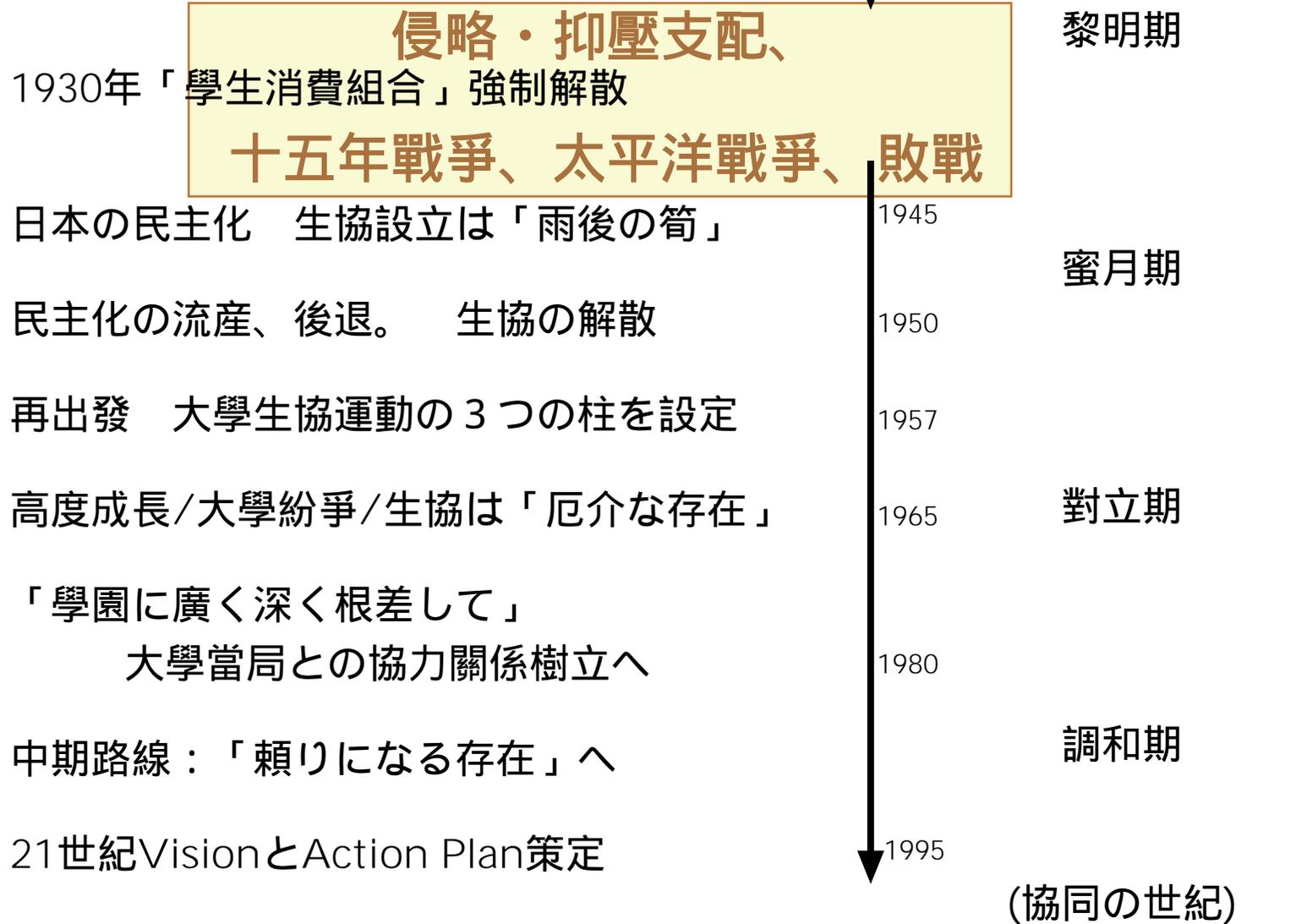
#### 【 Key Words 】

「大多数の学生・教職員を大学生協の組合員に迎える」

(大学生協の出発点であり、決定的な組織路線)

# 日本の大學生協の歴史

大學と大學生協



**侵略・抑壓支配、**  
**十五年戦争、太平洋戦争、敗戦**



NFUCA  
JAPAN

## ・より廣範な協同をめざして

### 継続的な大學生協設立活動の推進

毎年5～7校程度、設立が進行

#### 「Computer教育協議會(CIEC)」設立

*"Council for Improvement of Education through Co.*  
大學生協の活動から発展、現在は學會登録済み(1999～)

#### Volunteer Network組織「樹恩(JUON)」設立

1995年阪神・淡路大震災での學生のVolunteer活動を経て。

#### 「地域Communityの協同」に参劃

地域生協との協力、京都學生Volunteer Centerの活動など  
大學の改革、少子・高齡社會での存在價值を更に高める為に



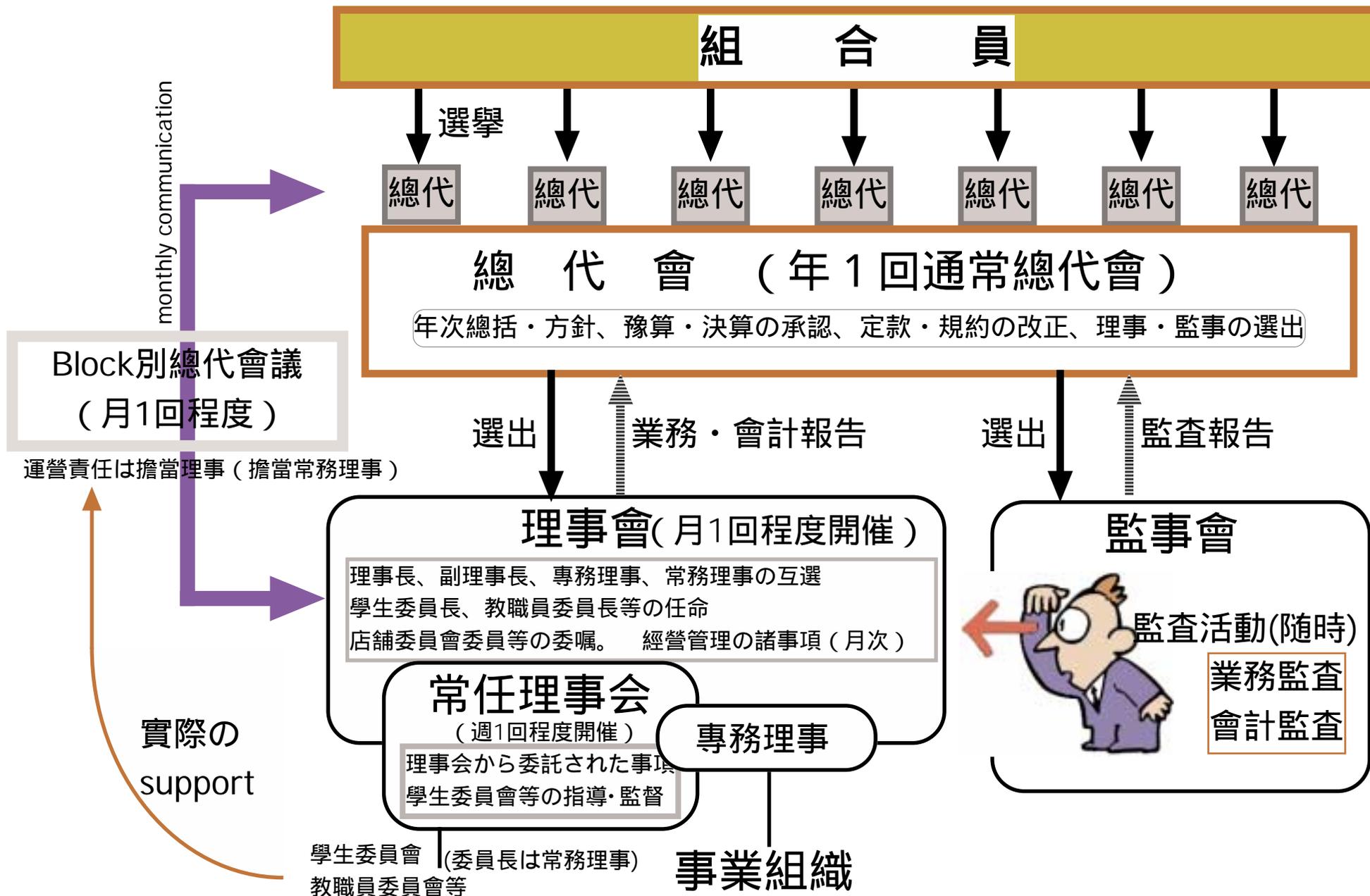
NFUCA  
JAPAN

### 國際交流活動

韓、比、越、泰、馬、新、尼、印：(ICA亞州太平洋地域) /  
中、露：(大學と交流協定) / 米(美)：(College Store協會會員)

# 参考資料

## 大學生協（單位生協）の組織と運営



## Block別總代會議（月1回程度）

機關運營ではないのですが、大きな大學生協では実践的には大変重要な運営です

理事會報告（ 學生委員會・教職員委員會等から ）  
Class・學科・職場の聲（ 總代から ）  
理事會や店舗運營に對する意見  
前回意見に對する改善結果  
Block独自のEvent企劃等

運營責任は擔當理事（ 擔當常務理事 ）



常任理事會（週次）で検討し、行動を起こす  
理事會（月次）に報告と提案

註：「Block別 總代・生協委員會議」という名称の場合があります。  
（總代數よりClassの數が多い場合、Class毎に生協委員を選出）